

## T2 胆嚢癌に対する肝床切除の再考に関する研究

### 1. 研究の対象

2021 年以降に当科で胆嚢癌の治療を受けられた方  
診断時に 20 歳以上の方

### 2. 研究目的・方法

胆嚢癌は術後再発率が高く、予後不良な疾患です。粘膜に発生した癌が、外へ向かって深く浸潤するにつれ、リンパ節・肝転移が増加し、生存率が大きく低下することが知られています。このため粘膜のすぐ外の筋層を越える癌に対しては根治を目指し、胆嚢が付着する部分の肝臓を一緒に切除したり、リンパ節を郭清するなど最適な術式が模索されてきました。肝臓の切除は肝浸潤および肝微小転移の制御を目的として行われてきましたが、切除した肝床に転移巣を認める症例は多くはありません。肝臓切除を省略できれば、合併症を減らし、標準治療である術後補助化学療法をより速やかに開始できる可能性があります。このため、筋層を越えるが、胆嚢の壁にとどまる（T2）胆嚢癌に対する肝臓切除が本当に必要なのか、省略できる群があるのではないかと、ということを検討することを目的とします。

2021 年以降に胆嚢癌に対する加療を受けた方の診療情報を集積し、また肝臓切除を伴う手術を受けた方の手術検体を再評価することで、微小転移の有無や肝転移を起こしやすい群を明らかにします。

研究期間：研究機関の長の実施許可日～2027 年 12 月 31 日

研究の対象とする範囲： 2021 年 1 月 1 日～2026 年 3 月 31 日

利用又は提供を開始する予定日： 2026 年 5 月 1 日

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、癌の深達度、ステージング、手術内容、術後再発の有無、生存期間、等

試料：手術検体

### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮

電話 088-880-2370

高知大学医学部附属病院 外科（消化器外科） 藤澤 和音（研究責任者）